



《noosphere no.4》2014、38x38 x45mm、agate,wood,plastic net,iron, acrylic paint,etc
©Takuma Uematsu, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

植松 琢磨 “platform”

会期：2014年4月12日(土) - 5月2日(金)

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room Shinjuku

オープニングレセプション：4月12日(土) 18:00-20:00

トークイベント：4月25日(金) 19:00-20:30 ゲスト：森 啓輔（美術批評、ヴァンジ彫刻庭園美術館学芸員）

Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku は、4月12日(土)より、植松琢磨の個展「platform」を開催いたします。植松琢磨は、2013年にART Basel Hongkong Encounters sectorにて大規模なインスタレーションを展開し、また本年は銀座メゾンエルメスのウィンドウディスプレイにて展示を行うなど、国内外を問わず近年非常に注目を集めている作家です。

様々な形象が立ち現れる幻想的なインスタレーションは、現代の情報化社会の中で生命体のように広がり形成されていくネットワークの流れを可視化したもので、そこではそれまで無縁に思われていたモノとモノの間に新しい関係性が構築されます。

展覧会では、結晶構造を持つ天然石である「瑪瑙(メノウ)」を用いて、多様な解釈を促す空間を提示します。是非ご高覧ください。



■Statement

層が重なり美しい結晶構造を持つメノウを眺めていると、例えば雲を見上げたときそこに別の何かを思い描くように、無意識のうちに記憶を辿りながら何かを連想している。自然から生まれたそれらは一様ではなく複雑で、そしてとても魅力的だ。同時に、石が生成される過程で蓄積された時間の痕跡に触れることを通して自分の時間軸は地球時間に照らされ、壮大な世界をイメージすることも容易にしてくれる。

そんな比喩に満ちたメノウに新たな関係性を与え、意識が織りなす集合体のイメージを重ねた作品 noosphere。人の意識は結晶のようにつながり、時には波のように押し広がり共鳴し、そして時間の層を反転させながらひとつの集合体を成している。そこでは、人間と自然、生と死、過去と未来、マクロとミクロといった、相反する様々なものが同等に交流する。新たな関係性を獲得した自然のモノたちは、再び何かを想起させてくれるだろう。

植松 琢磨 2014年3月

■Profile

植松琢磨 Takuma Uematsu

1977年生まれ大阪在住。2000年関西大学卒業。

身体の物質性と生命の関係をテーマに、さまざまな素材を自在に組合せたインスタレーションや、動物のフォルムを使った造形作品を、国内外のギャラリー、美術館で発表。世界を繋ぐ不可視な関係性に新たなイメージを見出し、連綿とつづきながら未来にむけ広がっていく新しい世界の在り方を表現している。

主な展覧会として、2013年「あなたがほしい i want you」(WELTKUNSTZIMMER/ドイツ)、ART Basel Hongkong Encounters sector(Hong Kong Convention and Exhibition Centre/香港)、2012年 Hyper-Cycle (Yumiko Chiba Associates viewingroom shinjuku/東京)、2010年 IMPULSE 22 with Fabian Chiquet (GALLERY Christian Löhrl/ドイツ)、2009年 神戸ビエンナーレ 2009 招待作家展 LINK-しなやかな逸脱 (兵庫県立美術館)、Ancient Futures” (ソウル市立美術館/韓国)など。